

---

## **分科会2**

# **「地域の「受援力」とネットワークづくり」**

---

### **話題提供資料**

# －静岡県ボランティア協会の活動から－

NPO法人静岡県ボランティア協会

鳥羽 茂

## 1. 静岡県ボランティア協会とは・・・ 協会のプロフィール

## 2. 災害ボランティアコーディネーター養成講座

## 3. 静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練 今年のテーマは「受援力」「連携力」

静岡県の災害ボランティア活動支援体制

図上訓練のねらい

## 4. 取り組みを通して／今後の課題・展望

## 地域の「受援力」と ネットワークづくり

事例提供資料

—静岡県ボランティア協会の活動から—



特定非営利活動法人  
静岡県ボランティア協会  
事務局長 鳥羽 茂

静岡県ボランティア協会とは・・・



### 静岡県ボランティア協会のプロフィール

・誕生日：1977年4月10日 任意団体として誕生 ※2002年5月にNPO法人格を取得

・所在地：静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館2階

#### 協会誕生の経緯：

43年前、重度の障害がある子どもたちのための「青空教室」が、ボランティアの手により始まる。この教室の開催は、ボランティアの組織立った活動を生み、心身障害児(者)通園施設建設へと発展。施設建設に関わったボランティアたちが、自前の活動拠点を作ろうと考え、33年前、拠点づくりとボランティア協会が誕生した。

・仕事：「誰もが安心して暮らしやすい社会」を目指し、市民が主体となって社会の様々な課題や問題に取り組むボランティア活動や市民活動を推進するため、個人やグループ、学校、企業などの橋渡しをする民間の“中間支援組織”として事業に取り組んでいる。

・強み：さまざまな分野の人・企業・団体・組織等とつながりがある

多様のネットワーク、自由な発想、小回りが利く、フットワークがいい

・弱み：お金がない、スタッフが少ない、余裕がない！  
(年間予算8千万円若) (有給職員16人パート職員含む)

### 事業の紹介

#### 相談・支援

- ・個人、学校、企業、団体等からのボランティア活動・市民活動に関する相談対応
- ・NPO・ボランティアグループ等の活動支援
- ・大型リフトバス「ふじのくに愛輪号」運行管理
- ・物品提供マッチングサポート
- ・ボランティアビューロー管理、活動資機材の貸し出し
- ・アフガニスタン復興支援NGO「カレーズの会」活動支援協力、「アフガンで拉致、殺害された伊藤和也さんの家族へのサポート」ほか



#### 広報・啓発

- ・機関紙「ボランティア情報静岡」「ぼらんていあMail」の発行
- ・ホームページによる情報提供
- ・ボランティア活動等に関する冊子、ガイドンス、ハンドブック、書籍の作成・発行、ほか



### 体験と学びの場づくり

- ・サマーショートボランティア活動計画(夏ボラ)
- ・静岡県ボランティア研究集会(32回開催)
- ・高校生スタディツアーINアジア(22回開催)
- ・一人じゃないよ「ケアする人のケア」を学ぶ会
- ・災害ボランティアコーディネーター養成講座
- ・静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練
- ・インターンの受け入れ、ほか



### 協会運営・その他

- ・会員増強キャンペーン(6月～7月末)
- ・ボラ協のしずおか福祉バザール(11月)
- ・年末年始とくべつ募金(12月～翌年1月末)
- ・「1本のジュースがボランティアを応援」募金・自販機113台設置(通年)
- ・災害時のボランティア受け入れ活動資金づくり(通年)
- ・災害時の非常食「パンの缶詰」でボランティア活動の資金づくり
- ・公益信託静岡県災害ボランティア活動ファンドづくりPR、ほか



**これまでの緊急救援活動**

**阪神・淡路大震災(H7)**

- 「被災地の人々を応援する市民の会」「奈良たんぽぽの家」へのスタッフ及びボランティアの派遣(～5月)
- 仮設住宅支援ボランティアのための活動資金募金

**ロシアタンカー重油流出事故(H8)**

- ボランティア派遣
- ボランティア活動支援募金活動 11,975千円
- 救援物資、物資輸送カンパ 1,140千円

**トルコ地震、台湾地震(H11)**


- ボランティア活動支援募金活動 2,163千円

**新潟豪雨水害、福井豪雨水害(H16)**

- 三条市、福井市へボランティア派遣

**平成18年7月豪雨(H18)**

- 岡谷市へボランティア派遣

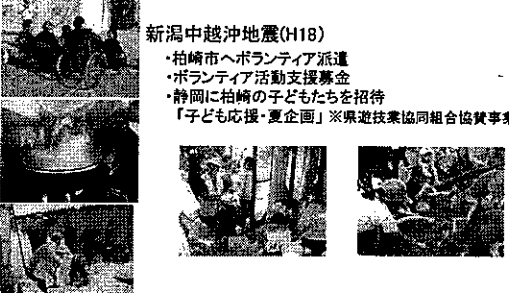


**新潟中越地震(H16)**

- 長岡市、小千谷市へボランティア派遣(10日間、延べ269人)
- ボランティア活動支援募金 4,836千円
- 「仮設住宅にこたつ・ホットカーペットを贈ろう!」ホットな贈り物作戦 287セット
- 雪かきと湯之谷温泉郷に泊まる応援団「仮設住宅の雪かきに行こう」

**新潟中越沖地震(H18)**

- 柏崎市へボランティア派遣
- ボランティア活動支援募金
- 静岡に柏崎の子どもたちを招待
- 「子ども応援・夏企画」※県遊技業協同組合協賛事業



**ミャンマー・サイクロン(H20)**

- ボランティア活動支援募金

**中国・四川省地震(H20)**


- ボランティア活動支援募金
- 被災地にテントを贈る運動
- 呼びかけ団体:33、賛同団体:12
- テント・支援金協力者:118団体・個人 募金総額:5,136千円

★全国のボランティア関係団体や組織・企業・行政の協働により、テント400個を被災地に贈ることができました



これまでの取り組みをご紹介しました

災害ボランティアコーディネーター養成講座



**★災害時のボランティア活動関連事業★**


講座・研修会

事業名	実施年度	備考
災害ボランティア コーディネーター養成講座	H8～14、 H17～19 H20～22	県委託事業 県労働者福祉基金協会委託事業
災害ボランティアコーディネーター養成講座修了者のフォローアップ研修会	H8～11	県委託事業

H21までの修了者:2,000人ほど(全日程を修了した人数)

1コース3日間の講座を県内6会場で実施

「被災者中心のボランティア活動のために」



**講座のねらい**

東海地震に見舞われたとき、静岡県に住む私たちは想像を絶する状況に直面し、さまざまな支援が必要になると予想されます。そして、ボランティアも被災地を支える大きな力として期待されています。

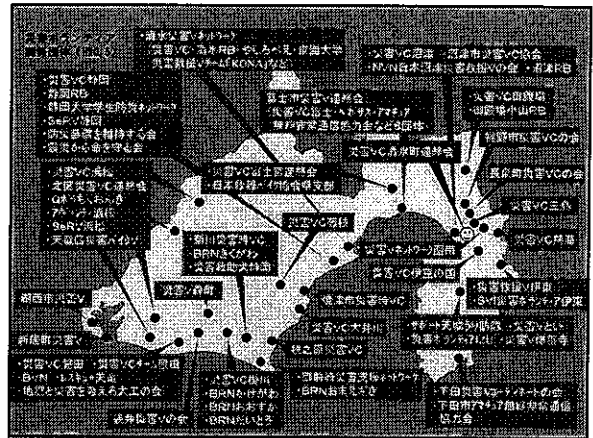
災害時のボランティア活動は、何より被災地の人たちにとって本当に必要なものでなければなりません。災害ボランティアコーディネーターは、そうした被災者中心のボランティア活動を進める上で大切な役割を果たします。

東海地震では、私たち自身が被災者になり救援者にもなります。いざという時に備えて地域の“受援力(※被災した側の支援を受ける知恵、ワザ)”を高め、被災者となった私たち自身が求めるボランティア活動が展開されるよう、「災害時のボランティア活動とは何か」「被災した一人ひとりに支援が届けためには何が必要か、何が大切なのか」を学び、ボランティアコーディネーターの役割を考える基礎講座として開催します。

3日間で学べることは大変限られており、また、講座を修了すれば災害ボランティアコーディネーターになれるというものでもありません。本講座は、修了時がスタートとお考え下さい。

**日程と進め方**

- 本講座は3日間で1コースです。  
(例)富士会場の場合は、9月5日、12日、13日の3日間。
- 富士会場で受講できない日が生じた際は、該当する日のセミナーを他会場で受講することができます。
- 3日間の講座全体が、災害ボランティアコーディネーターを考え、学ぶ場です。
- 本講座には、さまざまな立場の方が参加しています。グループワークの時間も多いため、皆さまの経験や知識、知恵などを生かし合ってください。
- 全体で自己紹介を行う時間がありません。グループは、なるべく毎回違うメンバーになるように分けますので、そのつどグループ内で自己紹介をお願いします。



**静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練**

今年のテーマ「受援力」「連携力」



**静岡県の災害ボランティア活動支援体制**

■市町では

**市町災害ボランティア本部**

- ・市町ごとに1ヶ所
- ・町の規模や被災の規模に応じて、本部以外に複数の拠点(サブ)を設置
- ・市町、市町社会福祉協議会、災害ボランティアコーディネーター、他

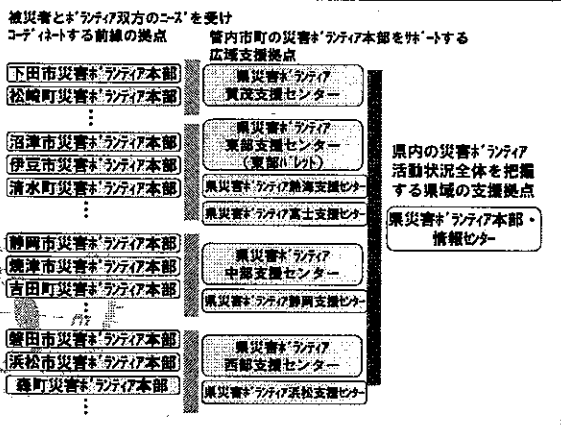
■県域では

**県災害ボランティア支援センター**

地域危機管理課管内ごとに4ヶ所 ※ただし、被災状況等に合わせ最大8ヶ所  
県、災害ボランティアコーディネーター、県内外のボランティア団体、他

**県災害ボランティア本部・情報センター**

県域で1ヶ所  
県、県社会福祉協議会、県ボランティア協会、災害ボランティアコーディネーター、県内外のボランティア団体、他



**図上訓練事業**

事業名	実施年度	備考
災害ボランティア本部立ち上げ訓練	H13~16	県委託事業
静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練	H17~19	自主事業・県委託事業同時開催
	H20~22	県労働者福祉基金協会委託事業

[平成20年度]  
243名の県内参加者と、東北から九州まで101名の県外参加者が、2日間にわたる訓練を行った。

県内参加者...  
災害ボランティア、県社会福祉協議会職員、県危機管理課員、地域危機管理課職員など

県外参加者...  
災害ボランティア、社会福祉協議会職員、災害ボランティアNPO職員、海外NGO職員など  
9機関のオブザーバー参加

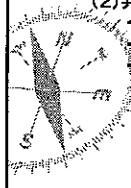
### 1. 平成21年度(第5回)図上訓練実施にあたって

訓練の全体像に対する理解をそろえ、訓練の効果を高めるとともに、円滑な運行をはかるための事前説明会を実施。

#### (1)実施形態の説明

#### (2)共催依頼事項の確認

- ・共催名義の使用確認(全37市町社協)
- ・図上訓練への参加呼びかけ
- ・市町チームのとりまとめ:市町ごとの参加申込み窓口、事前学習のリーダー



### 2. 平成21年度 訓練の概要について

#### (1)訓練のねらい

##### <県内参加者>

自分たちの市町の被害想定をもとに、市町災害ボランティア本部や県災害ボランティア支援センター、県災害ボランティア本部の要員確保(具体的に役割を担う人を確保する)と、発災後の救援活動を想定した“救援のための受援力・連携力”を考えるとともに、県外からの支援をどう受け入れるのかを具体的に探る。

##### <県外参加者>

予想される東海地震の被害想定を確認し、市町災害ボランティア本部や県災害ボランティア支援センター、県災害ボランティア本部の運営スタッフ要員確保や運営の状況を把握し、県外の災害ボランティア支援センターとしての支援内容をより具体的に考える。



#### (2)募集要項

#### (3)実施方法

- ・ワークショップとロールプレイを併用。
- ・リーダー、発表者、記録などは、なるべく多くの参加者に経験してほしいと思います。参加者の中で、誰に何が頼めるかをあらかじめ考えておいて下さい。



- ・県内の島は市町V本部、県支援センター、県V本部に分け、3層の支援体制を前提に考えます。
- ・県内チームの基本は市町単位とします。県支援センターにはそれぞれの市町から要員を出し、広域支援拠点の立場で市町V本部の活動支援を考えます。
- ・県外参加者には第2部から県内の島に入ることができます。

#### (4)訓練の想定

- ・東海地震が冬の朝5時に発生。
- ・第3次被害想定を利用
- ・発災後1週間経過、など  
(東海地震でのボランティア活動は長期にわたると予想されるが、今回の訓練は発災後1週間あたりを中心に考えていく)

#### (5)内容

- ・2日間の流れ 2010年2月27日(土)～28日(日)
- ・静岡市で開催
- ・第1部から第5部まで
- ・「事前課題の振り返り」
- ・「各ボランティア本部・支援センターの運営スタッフを」
- ・「各センターを動かす作戦会議」
- ・「連携上の課題を検討する」
- ・「振り返り」



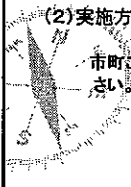
### 3. 事前課題について

#### (1)目的

市町チームを編成する参加者が、自分たちの市町に対する共通かつ現実的な認識を持つ機会として、事前課題に取り組んでいただきます。事前に共通理解を持って訓練に臨むことは、限られた訓練時間を有効に使うことにつながります

#### (2)実施方法

市町ごとに参加者が集まる場をつくり課題に取り組んで下さい。可能な限りこの方法で。



#### (3)課題

- ①私たちのまちはどんなまち?
  - ・自分たちの市町について再確認するためのワークなので、確認項目は適宜増やしてかまいません。
- ②東海地震で想定される市町の被害は?
  - ・第3次被害想定から考える
  - 参考)静岡県による第3次地震被害想定(東海地震)の市町・町丁目一覧  
<http://www.equakes.pref.shizuoka.jp/data/pref/higai/data/index.html>
  - 第3次地震被害想定報告書  
<http://www.equakes.pref.shizuoka.jp/data/pref/higai/houkoku/index.html>
  - ・駿河湾を震源とする地震や伊豆半島東方沖の地震も参考に、東海地震が起きたらどのような状況になるのかを考えてみて下さい。



- ③ 時間とともに被災者ニーズはどのように変わるか考えよう
- ・復興までには長い道のりがあることを踏まえ、初期段階を想定した今回の訓練に臨んで下さい。
  - ・被災者一人ひとりのニーズを想像してみる。

- ④ 連携の現状は？
- ・市町災害ボランティア本部の設置について  
具体的にどこまで決まっているのかを確認しておいて下さい。
  - ・市町ボランティア本部として連携したい先は？連携できる場所は？課題は何？  
実際に連携できる場所はあるのか、連携のための取り組みをしているか、課題は何かなどを現実的に即して考える。



# 輪島市門前地区民生委員児童委員協議会の取り組み

輪島市門前地区民生委員児童委員協議会 高出 一明

輪島市社会福祉協議会門前支所 赤坂 佳子

## 1. 要援護者マップに取り組むことになった経緯

平成7年の阪神大震災後、仮設で孤独死がたくさん出たという事を受け、独居高齢者の多い門前町では、孤独死を防ぐ目的で福祉推進員を作り見守りネットワークを立ち上げマップの作成、それに伴い、一年に1回の給食サービス、2ヶ月に1回の配食サービスをしながら日頃の見守り活動へとつなげている。

## 2. ボランティア活動の状況

### 1) 災害後の事

- ・ マップを作り給食、配食サービスをしながら見守り活動をしていたことで、地震直後すぐに担当の要援護者の安否確認ができた。
- ・ 自分自身はその後、避難所となった公民館の中で炊き出しから高齢者のお世話で一か月間が過ぎた。
- ・ 非常に大変な思いをしたが、お世話した高齢者からはとても喜ばれた。

### 2) 災害後の取り組み（視察）

- ・ 平成19年7月初めて県内（白山市）から視察の申し込みがあり、民協会長、社協会長、本所、支所等で協議の結果「自分達のしてきた事を話す事で、皆さんが一つでも得るところがあれば“災害時一人も見逃さない”につながるのではと、民協の視察に関しては門前地区で受ける事となる。
- ・ 研修時間はおおむね1時間半から2時間で、門前地区民協会長、副会長、社協門前支所職員とで対応する。
- ・ 会長、副会長の当時の体験談を簡単に話し、支所職員から配布してある資料に基づき補足説明の後、質疑応答の時間をできるだけ多く取る。
- ・ マップについて、個人情報取り扱いについて、福祉推進員について等の質問が圧倒的に多い。

### 3) 地域外とのつながりの活かし方

- ・ 受け入れした団体の岐阜県美濃市民協と半年後、門前地区民協全体で交換交流の場を設け、視察後の取り組み等の報告、意見交換をした。
- ・ 地震等災害の報道があった時、視察に来た地域が近い場合電話やファックスで安否確認をしている。

## ※感じたこと、気付いたこと

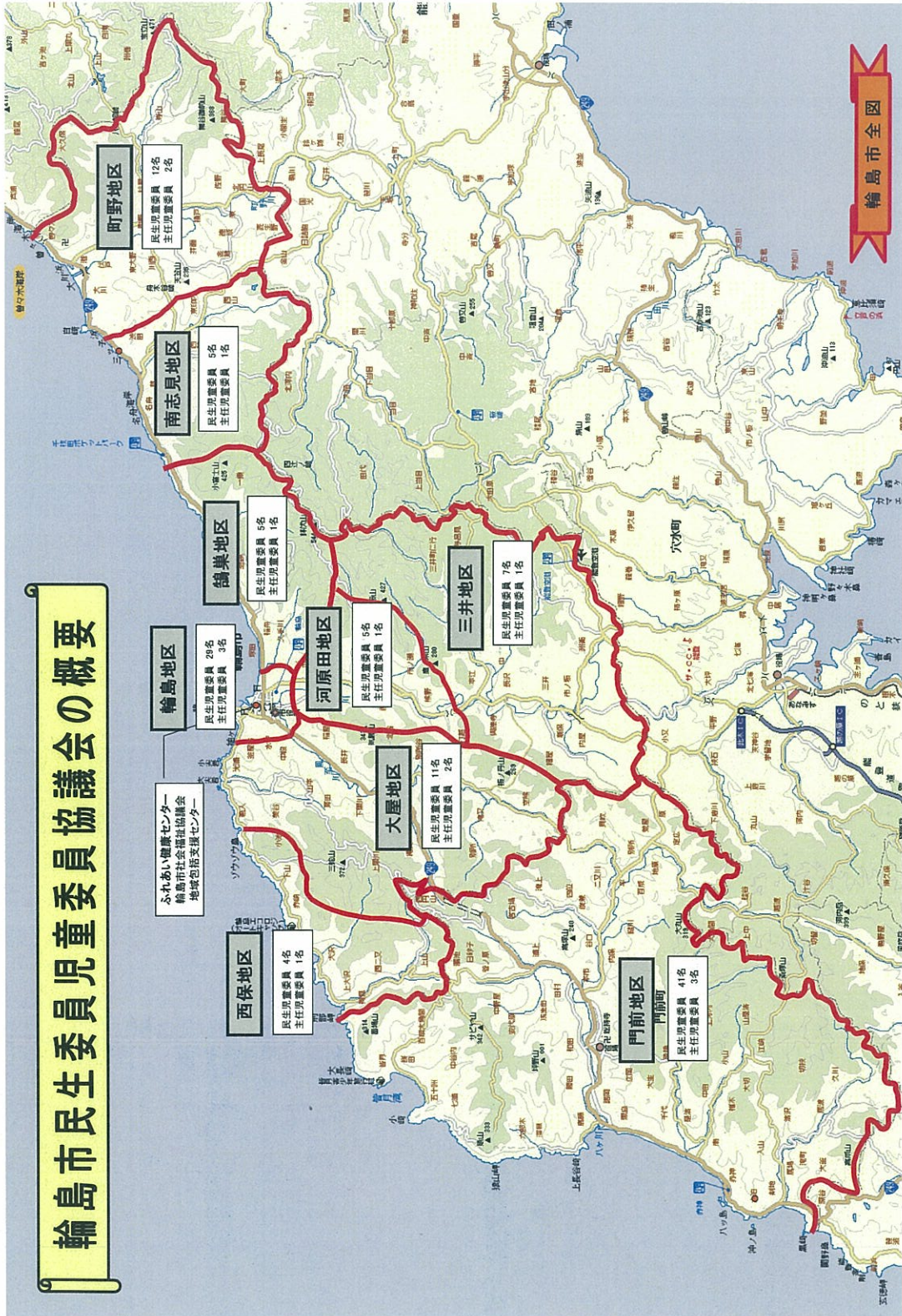
- ・ 自分達の所は大丈夫、という変な安心感を持っている。
- ・ 門前と同じ状況に近い所は地域のつながりも残っているが、大都市になる程希薄になっている。
- ・ 地域のお祭りや、体育祭、文化祭等、各種公民館活動、独居老人や高齢者夫婦世帯への給食・配食サービスなど、いろいろな活動を通じて絆を深める努力が大切。
- ・ 「楽しく住みよい町づくり」イコール「災害に強い町づくり」ということではないだろうか。まさに「急がばまわれ」である。







# 輪島市民生委員児童協議会の概要



## 1 輪島市の概況

輪島市は平成18年2月に旧輪島市と旧門前町の合併によって誕生しました。

今回の合併により本市は、輪島塗、朝市、総持寺祖院など歴史に培われた資産の数々、あるいは小泉元総理に絶景と賞賛された白米の千枚田の自然景観、能登の原風景と言われる間垣の家並みなど、きわめて多様な地域資源を有することとなりました。

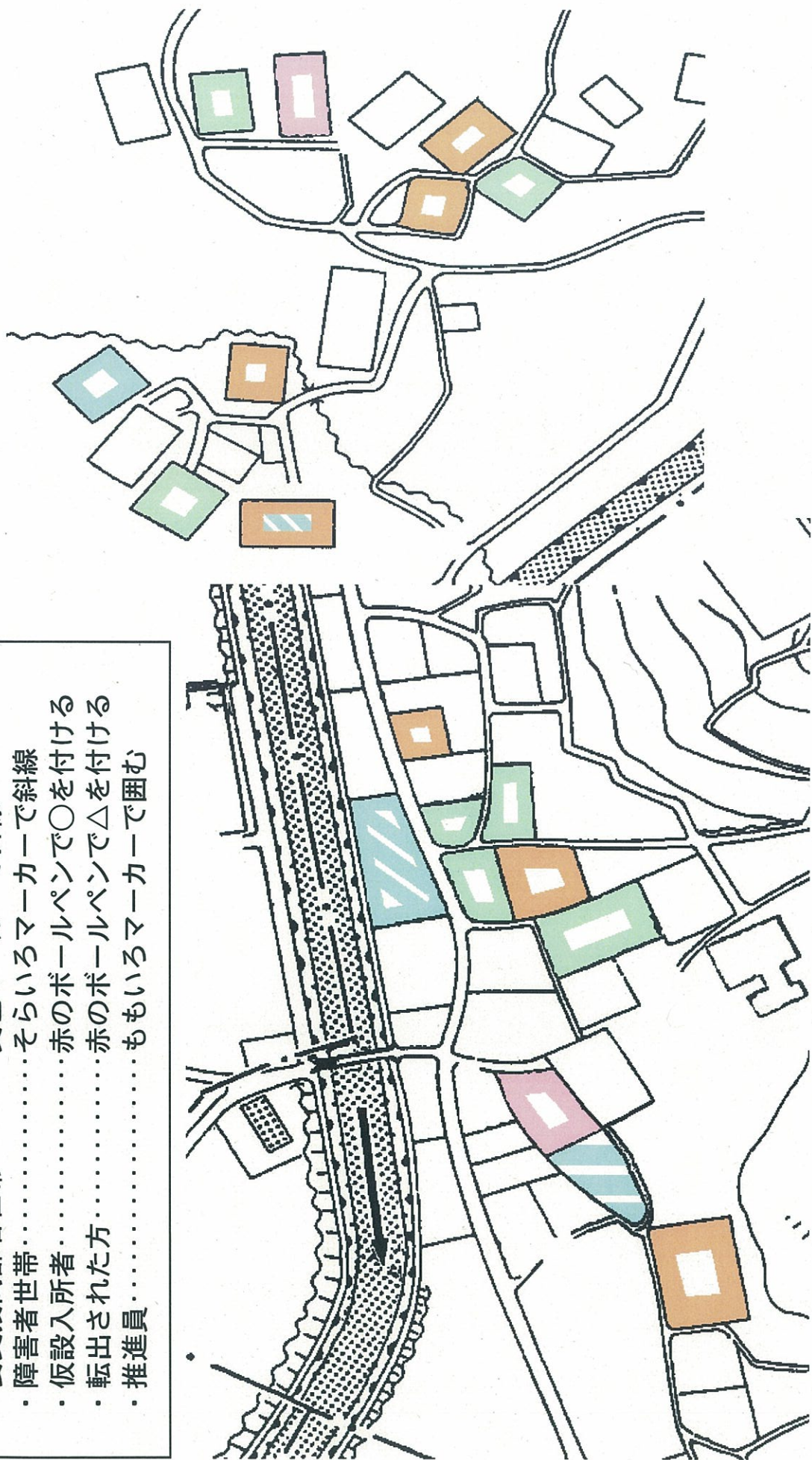
## 2 位置・地勢・面積

輪島市は、能登半島の北西部に位置し、東は珠洲市、能登町に、南は穴水町、志賀町に接しており、東西約42km、南北約31km、面積は約426km<sup>2</sup>で、石川県全体の約10.2%を占める市域を形成しています。  
80km余りに及ぶ海岸線は、優れた自然景観を呈し、その大部分が能登半島国定公園に指定されています。



# 要援護者マップ

- ・ねたきり高齢者世帯……そらいろマーカーで囲む
- ・ひとり暮らし高齢者……だいだいマーカーで囲む
- ・高齢者だけの世帯……きみどりマーカーで囲む
- ・要支援高齢者世帯……黄色マーカーで斜線
- ・障害者世帯……そらいろマーカーで斜線
- ・仮設入所者……赤のボールペンで○を付ける
- ・転出された方……赤のボールペンで△を付ける
- ・推進員……ももいろマーカーで囲む





# たくさんの応援ありがとうございました

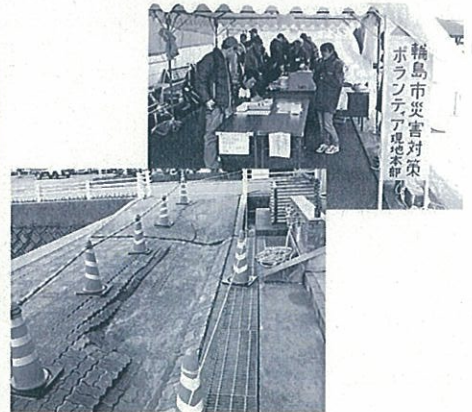
## 災害ボランティアセンターの活動報告(中間報告)

3月25日地震発生後、大混乱のなか、輪島市社会福祉協議会は被災された市民の皆様の生活の復旧のため、全国から支援にかけつけて下さいました多くの団体と協働で、三日後の27日に災害ボランティアセンターを立ち上げました。県内外の社会福祉協議会・青年会議所・災害ボランティア活動支援プロジェクト会議が中心となり、多くの福祉関係団体が、力を合わせて運営にあたりました。

県内で3ヶ所の災害ボランティアセンターが設置され、そのうち輪島市では2ヶ所 災害ボランティアセンター門前と災害ボランティアセンター輪島を運営しました。石川県には全国各地から約1万6千人を越えるボランティアの方々がおいでくださり、そのうち輪島市には約1万2千人が片付けや災害ゴミの処理などの作業を手伝って下さいました。

5月27日の閉所までの2ヶ月間、ボランティアの方の笑顔と励ましの言葉にどれだけ勇気づけられたことでしょうか。人が人を助け、人が人をつなぎ、たすけあいの輪を広めていくことに深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

### 【写真でつなぐボランティア】



3月25日午後からボランティアの問い合わせの電話がひっきりなしにかかりました。夜には、すでにボランティアの団体がふれあい健康センターの事務所に到着しました。



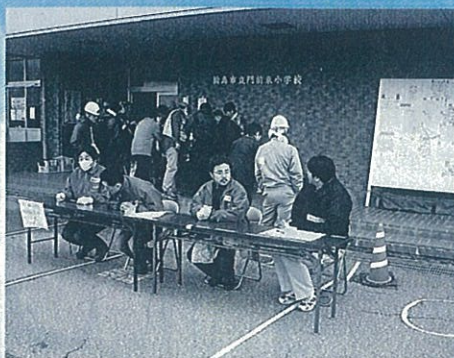
3月26日輪島市と協力して、最初のボランティアセンターを門前東小学校に立ち上げるため、準備をし、27日午後に関所する運びとなりました。



4 26日かけつけたマスコミ

53 28日から徐々にセンターとして稼働



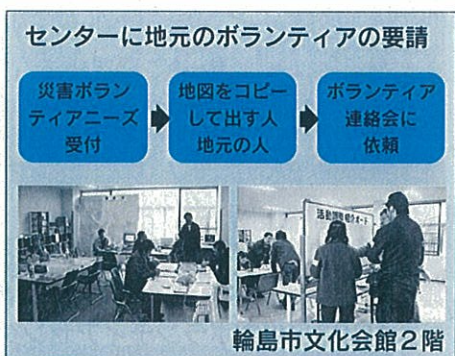
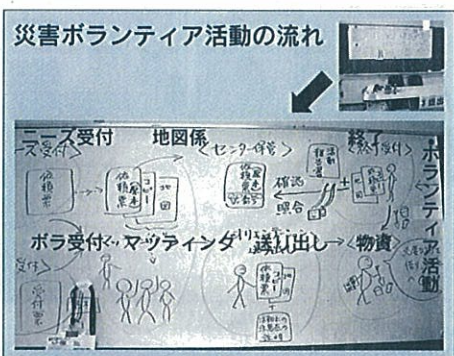


門前東小学校正面玄関に集まったボランティア



3月30日輪島市文化会館で準備をしていたボランティアセンターも、災害ボランティアセンターとして開所。いよいよ2つの災害ボランティアセンターがスタートしました。

木津 (センター長)		副センター長 (佐藤)		各クラスリーダー (和)	
ニーズ受付班	活動紹介班	総務班	連絡班	庶務班	物資班
本日	次回	本日	次回	本日	次回
ボランティア受付班	物資班	連絡班	庶務班	物資班	物資班
本日	次回	本日	次回	本日	次回



4月3日には名称を災害ボランティアセンター門前、災害ボランティアセンター輪島に変更しました。



4月5日災害ボランティアセンター門前を道下サンセットパークに移動しました。



ボランティアの主な作業内容

輪島市災害  
ボランティア  
センター門前

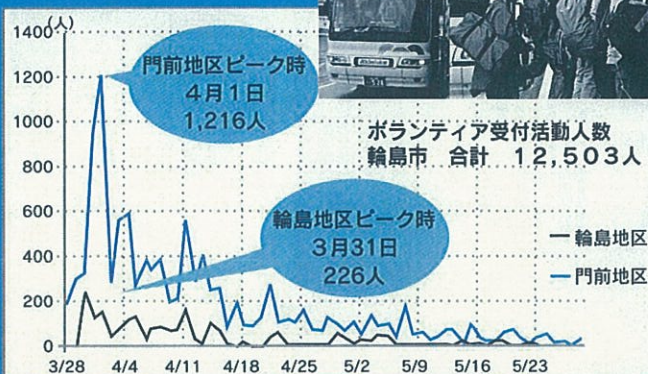
- ・ブロック塀の撤去
- ・瓦礫・廃材の処理
- ・家具の運搬
- ・災害ゴミの運搬
- ・救援物資の搬入出
- ・ブルーシート張り  
など

輪島市災害  
ボランティア  
センター輪島

- ・家財道具の運び出し
- ・家の中の片付け
- ・棚の運搬
- ・土蔵の土運び
- ・食器棚の廃棄  
など

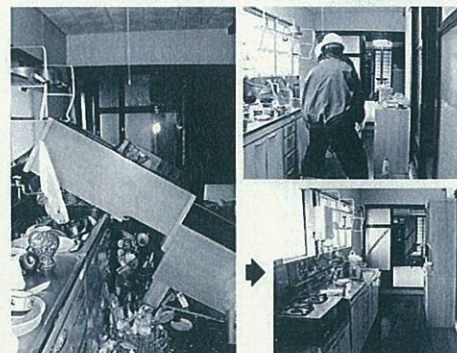
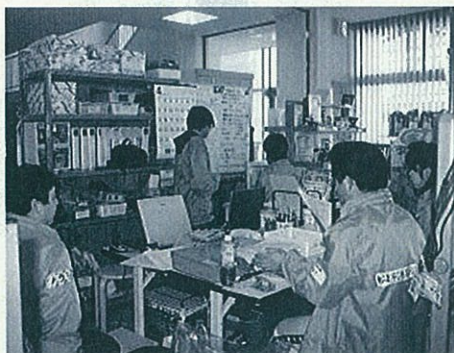
ボランティアの受け入れ

金沢よりシャトルバスも運行



本格的に動き出したボランティア活動

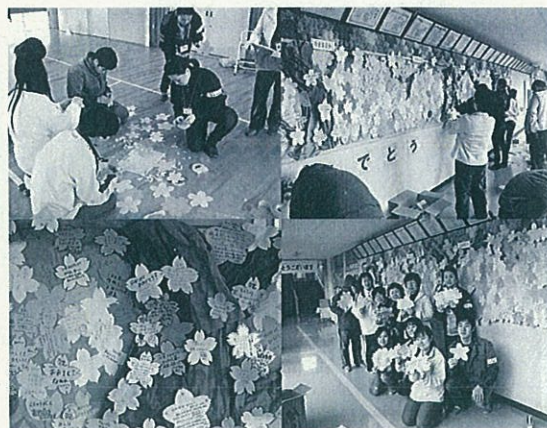
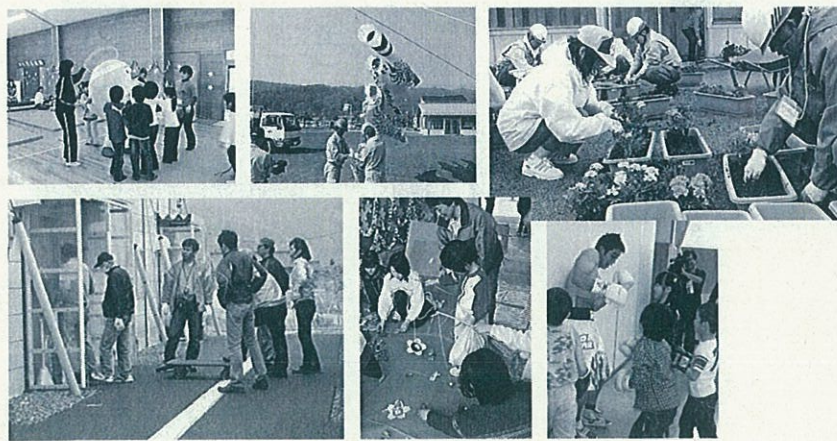
ボランティア活動 (河井町一部損壊家屋)



4月27日災害ボランティアセンター輪島をふれあい健康センターに移動しました。

ボランティアの方に片付けていただきました。

元気になってね！ たくさんのイベントをしました。



遅れた入学式にさくらメッセージをプレゼント



### 名称変更・場所移動

輪島市災害ボランティアセンター輪島

輪島市災害ボランティアセンター門前

5月28日

5月28日

復興支援ボランティアセンター輪島

復興支援ボランティアセンター門前



輪島市社会福祉協議会本所



輪島市社会福祉協議会門前支所



### 5月27日の閉所イベント



復興支援活動は今も続いています。仮設住宅でお花、野菜を植えました。



あらためて災害について考える  
フォーラムを開催しました。



防災グッズの紹介



パネル展示

### 全国から多くの方が 輪島へ視察に来られました。

民生委員児童委員協議会関係

29団体 917名

社会福祉協議会関係

20団体 216名

合計 1,133名



### その他、災害関係諸会合出席 12件



鳥取県西部地震から7年目の日野を訪問しました。  
皆さんのあたたかさに元気をいただきました。



# 災害ボランティアセンター 収支の状況

(平成19年12月31日現在)

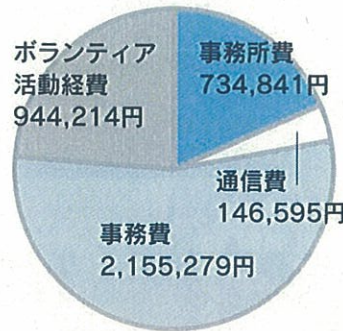
## ●現地(災害ボランティアセンター輪島・門前)の収支状況

○収入……4,809,599円

○支出……3,980,929円



収入内訳:  
石川県共同募金会  
災害準備金  
輪島 1,000,000円  
門前 2,000,000円



支出内訳:  
事務所費  
輪島 5,000円  
門前 729,841円  
通信費  
輪島 76,609円  
門前 69,986円  
事務所費  
輪島 866,035円  
門前 1,289,244円  
ボランティア活動経費  
輪島 293,637円  
門前 650,577円

※残金は復興ボランティア活動に使わせていただきます。

## ●石川県災害ボランティア本部において支払がなされた経費

・ボランティア活動用資機材……8,625,837円

支出内容……土のう袋、ハンマー、ブルーシート、ヘルメット、のこぎり、看板、仮設ハウス、  
車輛リース料、ボランティア送迎バス、折込チラシ代、電話代

# あたたかいご支援をありがとうございました。

災害ボランティアセンターに多くの義援金・ボランティア活動支援金をお寄せいただきました。  
まことにありがとうございます。ここにお名前をご紹介させていただきます。

### 活動支援金

アピリティクラブたすけあい 様  
アンティークノエル 様  
大阪府 杉本 様  
岡田 様  
岡谷市社会福祉協議会 様  
小千谷市社会福祉協議会 様  
加賀市社会福祉協議会 様  
片山工業 様  
葛飾区社会福祉協議会 様  
金沢市社会福祉協議会 様  
清須市社会福祉協議会 様  
皇學館大学社会福祉学部学生支援センター様  
志賀 様  
静岡市社会福祉協議会様・募金箱 (2件)  
清水沢学園 様  
生活協同組合コープこうべ 様  
生活協同組合コープこうべ労働組合 様  
東京ボランティア・市民活動センター 様  
東京ミニバレー協会 様  
特別養護老人ホームまいこ園 様

匿名の方 (2件)  
鳥羽市健康福祉課 様  
鳥羽市社会福祉協議会 様  
富山県 北鹿渡 様  
豊田中央研究所 アマチュア無線部 様  
長岡市社会福祉協議会 様  
長野市ボランティア連絡協議会 様  
奈良抒情の会さくら倶楽部 様  
新潟市社会福祉協議会 様  
富士ゼロックス(株) 様  
富士ゼロックス(株)端末数倶楽部 様  
募金箱(門前ボランティアセンター)  
募金箱(輪島ボランティアセンター)  
みずすまし 様  
宮城南郷ボランティア友の会 様  
山古志東竹沢公民館 様  
横浜市介護支援専門員連絡協議会 様

### 義援金(輪島市へ)

富山県小矢部建築協会 様  
山古志地区社会福祉協議会 様

### 義援金(石川県共同募金会へ)

金沢東ライオンズクラブ 様  
京都府 廣正 様  
神戸市社会福祉協議会 様  
滋賀県 虎姫町議会事務局 様  
東京都 金澤 様  
東京都 株式会社シーベヌ 様  
富山県 早川 様  
奈良県 河合 様  
兵庫県 NPO法人颯爽JAPAN 様  
楽書クラブ 様



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



# NPO法人佐賀県難病支援ネットワーク

## (佐賀県難病相談・支援センター)の取り組み

特定非営利活動法人佐賀県難病支援ネットワーク

山本 千恵子

### 災害時要援護者の災害時・緊急時の危機管理に関する普及啓発事業への取り組み

#### 1. 取り組むことになった経緯

私ども佐賀県難病支援ネットワークは、平成16年9月より佐賀県の指定管理者制度の指定を受け、佐賀県難病相談・支援センターの管理運営を行っている団体です。事業内容は、各種相談へ対応すると同時に相談者のニーズに応じて様々な支援を行なっております。

近年、全国的にも各地で大規模な災害が発生している中、佐賀県でも平成17年3月福岡県西方沖地震（震度5強）や台風被害による長時間の停電、集中豪雨による冠水被害が発生。しかし時期が経過するにしたがい危機感も薄れていきます。また、災害はいつ・どこで起こるかわからないのが実情であり、平常時から災害に対しての備えが大切で地域とのネットワークが必要不可欠であること、内閣府より「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」が示され、佐賀県に於いても平成20年度より災害時要援護者登録制度が開始されましたが、難病患者を含め災害時要援護者についての支援策は、まだまだ充実されていない状況にあること、また、災害や緊急時の対応に不安があるという相談者の声も数多く寄せられました。

そこで、当法人は県民協働型提案事業へ提案。採択を受け平成17年度より現在までに、緊急医療・支援手帳作成を始めとして、大規模災害時における難病患者の行動・支援マニュアルの作成等に取り組み、今現在も事業を継続中です。

#### 2. 活動状況

##### ●平成17年に佐賀県の協働型提案事業に採択

- 1) 緊急医療・支援手帳の作成
- 2) 要援護者避難訓練の実施
- 3) 大規模災害時における難病患者の行動・支援マニュアルの作成
- 4) 要援護者に関する災害シンポジウムの開催
- 5) 県総合防災訓練への参加
- 6) マニュアル等、災害時・緊急時の危機管理に関する普及啓発事業
- 7) 要援護者登録の実態についての聞き取り（電話による）調査（佐賀県内各市町）



### 3. 取り組みを通じて気がついたこと／今後の展望・課題

#### ・取り組みを通じて気がついたこと

- ◎難病患者、要援護者に対する周囲の理解不足
- ◎難病患者、要援護者自身の行政依存が非常に強い
- ◎災害が起こる前から災害をイメージして、日頃より災害に対する準備や対策を立てておくことの重要性。(自助の大切さ)
- ◎地域の中でのネットワーク作りの重要性(自助・共助・互助の大切さ)
- ◎要援護者登録が、なかなか進んでいない現状がある
- ◎伝えることの大切さと難しさ

#### ・県民協働型提案事業の利点

「行政機関、防災関係機関、地域住民、難病患者を含む要援護者当事者等がお互いの立場やお互いの考え方について意見交換を行いながら、事業展開を進めることで見えなかった部分、知らなかった部分等、共有することでより良い事業の展開が図れる」と考えられます。

#### ・今後の展望・課題

上記3の気づきが課題であり、地域格差の解消をいかに図るか、地域に合った支援体制をいかに作っていくか、地域の中での各個人のネットワーク作り等、多くの課題がある。

避難訓練や災害シンポジウム等を通して、難病や要援護者に対する正しい理解、災害への理解、平常時から災害に対する事前準備や対策を立てておくこと(自助の大切さ)、各自、地域の中でネットワークを作っておくことの必要性(自助・互助・共助の大切さ)について普及啓発を地道ではあるが今後も継続的に行なっていくことが大切であると考えます。

## 難病相談支援センターにおける 協働型提案事業

(災害時要援護者の災害時・緊急時の危機管理に関する普及啓発事業)

佐賀県難病相談・支援センター  
山本 千恵子

## 災害時要援護者に関する事業

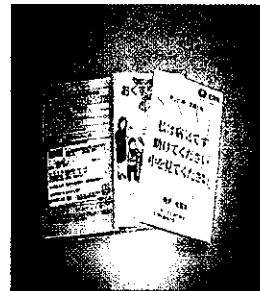
- ▶ 平成17年に佐賀県の協働型提案事業に採択
- 1) 緊急医療・支援手帳の作成
- 2) 避難訓練の実施
- 3) 要援護者に関するシンポジウムの開催
- 4) 大規模災害時における難病患者の行動・支援マニュアルの作成
- 5) 佐賀県総合防災訓練への参加
- 6) マニュアル等、災害時・緊急時の危機管理に関する普及啓発事業
- 7) 要援護者登録の実態についての聞き取り調査  
(佐賀県内各市町へ電話による聞き取り)

## 企画の段階から



- ▶ 難病とは何かから始まり
- ▶ 県や市の関係する機関と企業及び市民社会組織(CSO)との協働
- ▶ 理解してもらえるまでの時間
- ▶ 難病等の普及啓発
- ▶ 関係機関との連携構築

## 1)「緊急医療・支援手帳」作成配布



- ▶ 5,000冊作成
- ▶ 佐賀県の患者の方々へ無償にて配布
- ▶ おくすりノート
- ▶ 健康保険証
- ▶ 特定疾患受給者証ないしは小児慢性特定疾患
- ▶ その他の疾患をお持ちの方へ



## さあ・・・どうなるか



### 実際に避難してみて・・・



### 避難所にて・・・



### 3)「大規模災害時における難病患者の 行動支援マニュアル」



### 4)災害要援護者シンポジウム



- ▶ 自主防災組織の立ち上げを考えている
- ▶ 難病のある方への要援護者登録の実施等
- ▶ 要援護者と支援する側との話し合いはとても重要なことである

### 5)県での総合防災訓練への参加



県内災害時要援護者登録状況聞き取り調査		
I. 登録開始状況について	III. 登録方法について	IV. 登録者数について
<ul style="list-style-type: none"> <li>開始・・・55%</li> <li>準備中・・・30%</li> <li>未定・・・15%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手挙げ方式</li> <li>開始・・・15%</li> <li>準備中・・・15%が予定</li> <li>訪問・承諾・同意方式</li> <li>開始・・・15%</li> <li>準備中・・・15%が予定</li> <li>手挙げ・同意の両方</li> <li>開始・・・0%</li> <li>準備中・・・20%が予定</li> <li>無回答、未定</li> <li>20%</li> </ul>	(難病患者・小児慢性疾患・慢性疾患をお持ちの患者・障害者手帳保持者) ◎手挙げ方式による登録方法で進めている市町では登録が進んでいない状況が見られる。 回答例 ・市町が把握している対象者の・・・0.02% ・市町が把握している対象者の・・・1/3程度 ◎訪問・承諾・同意方式で進めている市町に於いては登録者数が比較的多い。 回答例(市町が把握している) ・難病患者の・・・76.19% ・小児の・・・88.89%
II. 市町が把握している難病患者について		
<ul style="list-style-type: none"> <li>県より、情報提供されている難病患者情報提供希望者のみの把握状況</li> </ul>		

### 気づきと課題

- ▶ 難病患者、要援護者に対する周囲の理解不足
- ▶ 要援護者登録が進んでいない状況
- ▶ 難病患者、要援護者自身の行政依存度が非常に強い
- ▶ 災害をイメージして、日頃より災害に対する準備や対策を立てておくことの重要性(自助の大切さ)
- ▶ 地域の中でのネットワーク作りの重要性(互助・共助の大切さ)
- ▶ 伝えることの必要性和難しさ
- ▶ 県民協働型提案事業の利点
  - 行政機関、防災関係機関、地域住民、難病患者を含む要援護者当事者等がお互いの立場やお互いの考え方について意見交換を行いながら、事業展開を進めることで見えなかった部分、知らなかった部分等、共有することでより良い事業の展開が図れる

### 結果

(メリット)

- ▶ 難病の普及啓発の促進
- ▶ 関係機関との連携協力体制の構築
- ▶ 障害者団体との連携協力体制の構築
- ▶ 地域との連携
- ▶ 県や市の防災訓練や出前講座に参加
- ▶ 校区の違う場所での避難訓練を実施
- ▶ 自助、共助、公助について、患者からの呼びかけ

(デメリット)

- ・ 大変な作業

### 最後に

- ・ 地域格差の解消をいかに図るか、地域に合った支援体制をいかに作っていくか、地域の中での各個人のネットワーク作り等、多くの課題がある。
- ・ 避難訓練や災害シンポジウム等を通して、難病や要援護者に対する正しい理解、災害への理解、平常時から災害に対する事前準備等(自助の大切さ)、地域の中でネットワークを作っておくことの必要性(互助・共助の大切さ)について普及啓発を地道ではあるが今後も継続的に行なっていくことが大切であると考えます。

ご清聴ありがとうございました。